

令和7年度第2回弘前市立図書館協議会会議録【要旨】

令和7年度弘前市立図書館協議会 会議録（第2回）			
日時	令和8年1月27日（火）午後2時57分～3時42分		
場所	弘前図書館2階 会議室	傍聴者	0人
出席者 (敬称略)	委員長 今井 正浩 副委員長 島内 智秋 委員 地主 尚子 委員 長尾 朗 委員 奈良岡 裕子 委員 宮本 ふみ 委員 藤島 歩 委員 佐藤 薫 委員 三浦 愛菜 委員 佐藤 義光		
欠席者	なし		
事務局側 出席者	弘前図書館館長 小田桐 康眞 弘前図書館業務主任者 阿部 美子 生涯学習課長 中川 元伸 生涯学習課総括主査 坂崎 春子 中央公民館相馬館館長 三浦 幸宏 図書館・郷土文学館運営推進室長 高橋 貢 図書館・郷土文学館運営推進室主事 福原 健		
会議の議題	(1) 「子どもの読書活動推進計画(第四次)」素案について (2) 令和8年度弘前市立図書館の事業計画等について		
会議の結果	「会議の議題」に基づき説明し、委員からの質問や意見を伺った。		
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 令和7年度第1回協議会後に寄せられた意見等について ・資料2-1 「子どもの読書活動推進計画(第四次)」素案について ・資料2-2 弘前市子どもの読書活動推進計画(第四次)素案 ・資料2-3 弘前市子どもの読書活動推進計画(第四次)素案 新旧対照表 ・資料3 令和8年度弘前市立図書館の事業計画等について 		

令和7年度第2回弘前市立図書館協議会会議録【要旨】

会議内容	
司 会	<p>ただいまから令和7年度第2回弘前市立図書館協議会を開催いたします。本日、司会を務めます、生涯学習課 図書館・郷土文学館運営推進室長の高橋と申します。よろしくお願いいたします。本日の会議は午後4時の終了を予定しております。簡潔な説明に努めますが、十分な質疑の時間がとれない場合は、お手元に配布しております、意見等記入用紙にご記入いただき、後日ご回答させていただきますので、みなさまのご協力をお願いいたします。次に、配布資料の確認をさせていただきます。資料1から資料3、今お話ししました、意見等記入用紙を配布しておりますのでご確認ください。不足はございませんでしょうか。</p> <p>(なし)</p>
司 会	<p>それでは会議に進みます。会議の議長は運営規則に基づき、委員長を務めることになっておりますので、以降の進行は、今井委員長にお願いいたします。</p>
議 長	<p>それでは議長を務めさせていただきます、弘前大学人文社会学部の今井です。どうぞよろしくお願ひします。出席委員ですね、10名ということですが、本日全員おそろいですので、定足数に達しております。さっそく会議に入らせていただきます。次第の2をご覧ください。令和7年度第1回協議会后に寄せられた意見等についてですね、事務局のほうから報告と回答をよろしくお願ひいたします。</p>
事 務 局	<p>では第1回協議会后に寄せられたご意見等について、3つ挙がっております。これについて回答させていただきます。まず電子図書館についてのご意見、ありました。電子図書館は活用のしかたを各校で工夫するなどすれば、隙間時間に気軽に本を読む習慣を身につける、よりよい取り組みへつなげることが可能かと思えます等々という意見です。これにつきまして、今年度4月から12月末までの電子図書館の状況について一部抜粋して載せております。これを見ますと、児童・生徒グループというところを抜粋してありますが、ログイン回数が前年1万4,992回に対して、今年度1万8,705回、3,713回増えたということです。人数に関しても、前年の同期では1,342人、これが1,677人、前年比125%、335人増えています。小学校と中学校に分けてそれぞれあるんですが、まず小学校においては、これまで利用校数は停滞していたんですが、一気に9校増えています。全体が今33校あるんですが、そのうち28校利用ですから、順調に増えているところです。小学校の実績について一覧にすると、利用が少ないまたは利用がないという学校が一部あるんですが、そういうところのほうが目立つような状況になっております。中学校においては、前回、第1回的时候は、</p>

令和7年度第2回弘前市立図書館協議会会議録【要旨】

事務局	<p>1校がずば抜けて利用してる状態だったのが、今年度はそれに続く学校が現れております。2校がずば抜けているという感じです。今年度、このようにですね、社会一般的には読書離れと心配される中で、これだけ広がりが出てくるということについては、この協議会のメンバーの方々の学校、実際増えています、このご意見の中にありました、子供たちが興味を持ち、先生が積極的に活用できる環境づくり、これを、このメンバーの方々が学校で率先されてるのかなというのが想像できます。私たちも、こういった協議会もそうですが、いろんな機会があるごとに、電子図書館に関する情報を届けていくことが、こういった広がりにつながっていくのかなと感じております。その次、製本、絵本づくり、読み聞かせ、そういったものを委員間でコラボしてなにかできそうです、というところにつきまして。弘前図書館では毎年5月頃に、地元の絵本作家のささやすゆき先生を講師に招いた、絵本づくり講座を開催しています。あと自主事業として、私たちのほうで製本講座、これを昨年より始めておりました、今年度は3月28日に、豆本を作ろうというタイトルで開催します。5月のはもちろん実施済みですが、3月28日の豆本を作ろう、については、申し込みが2月22日からということで、これからどのぐらい人を集められるかというところです。前回、第1回のときに、報告の中で、スタンプラリーですか、図書館のところでご紹介しました豆本、今日ご用意しました。豆本を作ろうという講座、製本講座でつくるのもこういった本です。こういったのをやりますので、お互いにこのようなイベントの見学とか、そういったところから始めれば、コラボレーションとかそういったものができるのかなと思っています。読み聞かせについて、弘前図書館で案内をお配りしております。読み聞かせについては、読み聞かせボランティアの方々に協力をいただいて実施しているんですが、そのボランティアの方々の高齢化による人員不足という問題が顕在化しつつあるんです。その中で、柴田学園大学児童学研究部のみなさんには、若いパワーとしてこの読み聞かせボランティアに参加していただいています。ありがとうございます。弘前図書館においては、毎週のこのおはなし会、小学生に贈るおはなし、夏休みおはなし会、クリスマスおはなし会といった、イベント的要素を加えたおはなし会を開催しておりますので、そういうところでもコラボレーションは可能かなと思っていますので、ご相談いただければと思います。ご意見3つ目、地域子育て支援センターを利用されている方々に図書館に興味を持っていただけるような取り組みを考えたいと思います。こういったところについても、まずはおはなし会ですね。そういったところの参加で連携できればいいのかなというのは常々考えておりました。さきほどの、この図書館読み聞かせについての案内ですが、弘前図書館、岩木図書館は毎週土曜におはなし会を開催して、こども絵本の森ではちょっと変則的な曜日に開催をしているんですが、対象年齢を0歳、あと0歳から3歳の、2つのクラスに分けて開催しています。逆に、読み聞かせを身につけたいという方に向けて、弘前図書館と岩木図書館では、読み聞かせ講習会というのを開催しています。こうい</p>
-----	---

令和7年度第2回弘前市立図書館協議会会議録【要旨】

事務局	<p>ったものの連携というのがうまくできればいいのかなと。これは個人的な話なんですけど、私自身ずっと転勤族で、息子も小学校を3つ通うような頻度で引っ越しをしていたんですが、図書館や児童館のおはなし会とかイベントでできるネットワークにかなり助けられたという経験をしています。子供の成長のため、そして子育ての支援、そういったものに対して、子育て支援センターとかと連携していければ、大きな地域貢献に繋がるなと思いますので、ここも機会をつくれましたらご相談したいなと思っています。以上が意見等にする回答でございます。</p>
議長	<p>どうもありがとうございました。ただいまのご説明につきまして、なにかご意見、ご質問等ありませんでしょうか。いかがですか。電子図書館の状況については着々と実績を上げられておられるということですね。逆に今度は利用しないほうが、ちょっと目立ってくるということもありますけれども、おそらくこのペースでいきますと、全校利用という状況はいずれ出てくると。</p>
事務局	<p>そうですね。2年ぐらい停滞したんですけど、この3年目がうまく来て、このペースでいけば、まず小学校ですね。もしかしたら全校利用というのも可能なのかなということも考えられる。中学校に関しては、やはり今の本のラインナップでは、確かに厳しいのかなということも感じております。この2月末から3月にかけて、来年度の図書の入替えがありますので、そこではそういうのも考慮したいとは思っておりますので。</p>
委員	<p>私も前回の会議を受けて、今年度お世話になっている中学校でも、担任の先生何人かに使っていただいたんですけど、やはり、今、お話のあったラインナップが、小学生向けが多いのかなということで、若干、中学校は、失礼な感じになるけど、使いづらいなというふうなところがあったので、中学校向けの電子図書を増やしていただくと進めやすいのかなということを感じてました。</p>
議長	<p>全国的にどうなんでしょうか。いわゆるラインナップというか内容面で、どういう状況にあるのかというのは、結構重要だと思うんですけど。どうしても小学生のほうにプライオリティをおくような企画として、おそらく始まったんだと思いますけれども。</p>
事務局	<p>そうですね。この選書、教育委員会の方々にまずお願いするところはあるんですけど、そこに我々も状況をきちんとつなげて、現状を踏まえた選書ですよ。たぶん小学校の朝読というのが1つテーマとして出てくると思うので、これから広げていけるところとして提案していきたいと思います。</p>
議長	<p>どうぞよろしく申し上げます。ご意見、ご質問等ありませんでしょうか。よ</p>

令和7年度第2回弘前市立図書館協議会会議録【要旨】

<p>議 長</p>	<p>ろしいでしょうか。</p> <p>(なし)</p>
<p>議 長</p>	<p>それではないようですので、次第の3、議事のほうに進みたいと思います。まず議事の1、「子どもの読書活動推進計画（第四次）」素案について、事務局のほうからのご説明をよろしくお願いします。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>まず資料なんですけども、資料2-1から2-3までございまして、概要を1枚にまとめた資料2-1、計画の本文になっている資料2-2、前回、第三次の計画との新旧対照表の2-3と、3種類ございます。時間の都合もあるので、2-1の概要を中心にしながらご説明したいと思います。まず、この子どもの読書活動推進計画についてですが、子どもの読書活動の推進に関する法律に基づいて策定したものになっていまして、内容が、家庭と地域と学校が連携、協力して、子供の読書環境づくりを進めていくという計画になっています。弘前市では平成21年に第一次の計画を策定しております。それ以降は5年間の計画期間と目標を設定して、その点検と評価をした上で、この計画を策定しており、今回は第四次計画を策定するものになっています。前回の計画での目標と達成状況については、細かいところは資料2-2の計画素案に掲載しております。前回、第三次で計画の達成できた目標は、児童書蔵書冊数の増加、学校図書標準の達成校の増加、学校図書標準の達成率75%未満の校数の減少の3つになっております。未達成の目標は、図書館の15歳以下の年間貸出人数の増加、読み聞かせ事業参加者数の増加、移動図書館巡回箇所数の増加、ボランティアの協力を得ている校数の増加、市立図書館と連携している校数の増加となっております。未達成の目標の評価については、今回の修正内容と関連するので、のちほどあわせてご説明いたします。次に、今回の計画への修正の概要の案について、まず第四次計画は、基本的に第三次計画を修正するかたちで素案を作成しています。これまでに、第三次計画の点検と評価を行った上で、庁内の関係部署に内容の照会をし、各小中学校に状況を調査させていただいてから市民に向けたパブリックコメントの募集を行いました。それを踏まえて修正したものが、今お配りしている計画の素案となっております。主な修正箇所ですが、まず、実績値などを最新の数値や計画年度の数値に修正しております。ここは一部、傾向の補足説明をつけています。次に、国と県における子どもの読書活動関係の計画に合わせて、計画趣旨の一部を修正しています。関連して、読書バリアフリー法の制定がありましたので、図書館の施策の部分に読書バリアフリー法を踏まえている旨の文言を加えています。取り組み内容は、図書館で以前からも行っていた、障がいのある子どもに対してのものなので、具体的な内容は大きくは変わっていません。次に学校・子育て関係で、学校司書の取り組みなど、現況に合わせて修正、追記しています。最後に、計画の点検・評価項</p>

令和7年度第2回弘前市立図書館協議会会議録【要旨】

事務局	<p>目の見直しをしており、前回の目標と今回見直した目標とを並べて表示しております。主なものとして、児童書図書冊数、年間貸出人数、読み聞かせの事業の参加者数についてですけれども、これらの数値が、前回までのとらえ方ですと、人口減少、少子化、図書館の利用者数自体も減少しているということが大きく影響して、本来把握したいデータが得にくいものになっておりましたので、今回の計画では、これまでの意図を引き継ぎながら、達成状況をより適切に把握できるように、指標を割合などに見直したものとなっております。</p>
議長	<p>どうもありがとうございました。ただいまのご説明について、なにかご意見、ご質問等ありませんでしょうか。いかがですか。私のほうから。基本的に素案は第三次をベースに、文言、字句等の修正を加えるというような対応でよろしいわけですね。</p>
事務局	<p>おおむねそうです。</p>
議長	<p>わかりました。気になってはいたんですが、未達成の項目は、例えば今後、評価を受ける際にどういうふうに影響するのかということがあるんです。今のご説明にもありましたが、やはり全国的に少子化の急激な進行という方向に進んでおりますので、絶対数をカウントしてという評価が、これからだんだんなじまなくなってくるんじゃないかということは、ひとつあるわけですね。それで、当然、そういうものとあわせて、運営に関わるスタッフ等々についても、当然、予算等の問題もありますので、もっとフレキシビリティを上げた上の方式に変えるべきだとか意見が出てくると思うので、次のステップに移行、シフトする際に、少しいろいろ考えたほうがいいのかというような観点は、出てくるんじゃないかとは個人的に思いますので、そこはお伝えしておきたいと思います。よろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>はい。</p>
議長	<p>委員のみなさんのほうからどうでしょうか、ご意見、ご質問等ありませんでしょうか。</p>
委員	<p>資料の概要に関してご説明があつて、本文のほうでは、学校における読書活動の推進ということで、学校のほうにも目を向けていただいて、ありがたい計画だなというふうに読ませていただきました。学校司書配置研究事業についての研究と、初めて書き加えられたと理解しております。この学校司書に関しては、ここにいらっしゃるみなさまご存じのどおり、国では地方交付税措置で、市町村、自治体に学校司書を配置して、図書館教育を進めていこうという方向性が国のほうでも示されているのかなというふうに思っています。私、秋に青</p>

令和7年度第2回弘前市立図書館協議会会議録【要旨】

委員	<p>森市で行われた東北の学校図書館の大会にも参加したんですけれども、市町村によっては6割ぐらい配置されて、学校と一緒に図書館教育を進めているというところもあるようです。質問としては、学校司書2名の配置というところで、現状、非常に充実した活動があるということは伺っていますけれども、今後の見通しというか、方針に関してはなにかあるのかなと考えてご質問させていただきましたが、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>学校司書の配置自体については学務健康課で行っている事業になるので、直接こちらで資料は持ち合わせていないのですが、今後の見通しですとかそういったものを、のちほど学務健康課と連絡をとってお伝えしたいと思います。</p>
委員	<p>ありがとうございます。学校としては、様々な立場とかいろいろなところから、学校司書の配置増に向かって働きかけしていただければ嬉しいなということで発言させていただきましたが、予算措置等もあると思いますので、なんとか図書館の立場からのご協力いただければと思いますので、よろしくお願ひします。</p>
議長	<p>配置が6割というのはどうでしょうか。委員から見て多いでしょうか。ある程度、それなりにはその水準にいつているという。</p>
委員	<p>6割というのは、国のだいたいをならしていけばということ。青森県自体は、5年に1回、調査が行われてるんですけれども、学校司書の配置は全国でも最下位の状態がずっと続いていると。未配置だったり、あるいは市町村に1名ないし2名だったりという現状がずっと続いているので。</p>
議長	<p>なかなか、予算的な問題もありますからね、これは。</p>
委員	<p>いろいろ事情はあると思います。</p>
議長	<p>わかりました。どうもありがとうございました。みなさまからご意見、ご質問等ありませんでしょうか。よろしいですか、今の点につきまして。</p>
委員	<p>資料2-3のほうは、人口1人当たりに換算してござっております。できれば資料2-2のほう、平成30年度の人口の分母がいくらかわからない可能性もあるから、こういうかたちになっているのかもしれませんが、これも人口1人当たりで表示していただければ、比較がすごくしやすかったかなと思ひました。</p>
事務局	<p>平成30年の数値と令和5年の数値として、1人当たりに直せるようなもの</p>

令和7年度第2回弘前市立図書館協議会会議録【要旨】

事務局	<p>もありますので、参考として、この横のあたりに追加を検討したいと思います。ありがとうございます。</p>
議長	<p>ほかになにかありませんでしょうか。</p>
委員	<p>実績値等を最新の数値やデータに置き換えるということだったんですが、一番最初の計画策定の趣旨のところ、令和6年6月に行われた学校読書調査が元になっているようなんですが、今、もう令和7年の6月の調査の結果も出ているようで、そういったところは今後置き換えになるのかどうかをお聞きしたかったです。</p>
事務局	<p>11月頃更新されていたので、その数値を最新として載せるように検討したいと思います。ありがとうございます。</p>
委員	<p>不読率の割合も減少というか、増加と減少がちょっとわかりづらいというところがあって。不読者の割合が不読率なので、増加するとマイナスなんですよね。不読者が増えると不読率は上がるので、そのあたりのところの表現が、いい傾向になったのか悪くなったのかわかりづらいなと思っていますので、いわせていただきました。あと、令和7年2月に青森県の子ども読書活動推進計画が策定ということなんですけれども、県の子ども読書の表現が、子供の子がひらがなになっているので、そこは修正をお願いしたいと思います。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。</p>
議長	<p>どうもありがとうございました。事前に項目をセッティングした上で、それで見合うかたちでカウントしていくということですので、ここを少し、そのあたりコンセプトの整理も含めて、次にステップアップする際、いろいろご検討いただければと思いますが、よろしいでしょうか。ほかになにかありませんでしょうか。</p>
	<p>(なし)</p>
議長	<p>よろしいですか。どうもありがとうございました。それでは次に進みます。議事の2、令和8年度弘前市立図書館の事業計画等について、まずはじめに、弘前図書館、岩木図書館並びにこども絵本の森の事業についてご説明をどうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>弘前図書館、岩木図書館、こども絵本の森、この3館は、私ども株式会社図書館流通センターの指定管理で運営しておりまして、この事業計画について</p>

令和7年度第2回弘前市立図書館協議会会議録【要旨】

<p>事務局</p>	<p>も、弘前市のほうから指定事業として指示を受けています。あと、私どもで企画・推進しております自主事業。この2つに分けて、それぞれこの3館で実施しております。弘前市の指定事業については、この3館共通のものがありまして、こちらは一覧表にはまとまっているんですが、まず弘前図書館のほうで見ていただくと、ブックスタート事業。あと、おたのしみおはなし会は、さきほどもお話出ました読み聞かせで、これは館によって名前は変わったりしているんです。あと、施設見学と職場体験等の受入があります。こういったものが、弘前図書館、岩木図書館、こども絵本の森、こども絵本の森での職場体験というのは施設のカラーからして、ちょっとないんですが、こういったものがあります。自主事業の中で、岩木図書館とこども絵本の森でも、それぞれ自分たちスタッフのほうで企画・立案して進めているものがあるんですが、特に弘前図書館の自主事業というのは、かなり数は多いかと思うんです。自主事業としても共通のものがありまして、4館スタンプラリー、来館記念スタンプ設置というものがあります。あとこの中、いろいろ、あるんですけど、私たちがとにかく、力を入れて進めているものが、弘前市立図書館を使った調べる学習コンクールです。今年度も全国審査まで2つの作品が進みまして、その中で2つの作品とも入賞、入選となっております。これについてまた来年も応募数を増やして。今年度は、今までずっと小学生の応募だったのが、高校生などの大人の部門へ応募がありました。またそういった応募の部門を増やしなが、全国入選を増やして。地区入選もそうですが全国入選を増やして、小学校、中学校、高校の方々に認知度を上げていきたいと思ひます。あと、ライブラリースクールです。これは今年度から始めているものですが、国立科学博物館の研究員の方々に協力いただき、今年度は恐竜に関するスクールを行いまして、来年度も国立科学博物館の研究員の方、段取りがようやくできまして。弘前大学出身の方なんですが、モグラ博士として全国で有名な方で、国立科学博物館でもその博士がセミナーをやると小学生がわんさか押し寄せてくる。国立科学博物館は距離の問題もあつて、こっちの子供たちが行くことができないかと思うんですけど、そういった接点を持って、将来、進学などで東京に行ったら国立科学博物館に行つて、あそこの進んだ科学、そういったものに触れて、そういう夢につなげていければという思ひでやっています。あと弘前図書館は、なんで国立科学博物館とパイプがあるんだろうとか、興味をもってもらえるかもしれせん。</p>
<p>委員</p>	<p>川田伸一郎さんですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>そうです。ぜひやりたいということで向こうからお声をかけていただいて。これを続けていければなと思ひます。あとはだいたい今まで続けてきたようなイベントではあるんですが、そういったものはしっかり計画したものになっていると思っております。以上です。</p>

令和7年度第2回弘前市立図書館協議会会議録【要旨】

<p>議 長</p>	<p>どうもありがとうございます。次に相馬ライブラリーの事業についてご説明をどうぞよろしく申し上げます。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>相馬ライブラリーの8年度の事業についてご説明いたします。基本的には7年度と同じ事業を予定しております。おはなし会については毎月第2日曜日に実施しております。次に、夏休み特別企画のおはなし会については、おはなしサークルの方に来ていただいて、寸劇などを通して、読書への導入を図る予定となっております。ちなみに7年度はおはなし会ひまわりとスキップわくわくの方に来てもらっております。夏休み特別企画と冬休み特別企画、こちらのほうは、くじとかビンゴを使って図書を借りてもらおうというイベントを予定しております。あとは、県立図書館コーナーとして、県立図書館から本をお借りして、それを地域の人に貸し出しする予定となっております。また、ライブラリーの広報紙発刊も年4回、一応実施する予定となっております。あと、相馬地区の文化祭がありまして、これに合わせて図書館に来てもらおうと、この時だけの特別なイベントをして、今年の場合は謎解きゲームを用意しまして、それをクリアするとクリスマスカードをプレゼントというようなことをしております。</p>
<p>議 長</p>	<p>どうもありがとうございます。続きまして、図書館・郷土文学館運営推進室の事業についてご説明をどうぞよろしく申し上げます。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>弘前図書館創立120周年記念事業につきましては、講演会や博物館での企画展を行った100周年よりだいぶ控えめとはなってしまうんですが、弘前図書館でのロビー展を開催したいと思います。以降は、令和7年度の事業計画とあまり変わるところはございませんが、長く講師の調整がつかず実施できずにおりましたくずし字講座、初級の方向けなんですが、今年度は当推進室の古典籍の職員が担当し、今の土曜日、1月24日から開催しております、20名の募集に対して16名と、大変多くの方にお申し込みをいただいております。また、古文書デジタル化推進事業につきましても、撮影が終了している藩庁日記などの最優先資料の公開や、未撮影の古文書のデジタル化作業など、今後、本当に少しずつとはなってしまうんですが、着実に実施してまいります。</p>
<p>議 長</p>	<p>ありがとうございました。ただいまのご説明についてですが、全体を通してでも結構ですし、個別でも結構ですが、なにか委員のみなさま方のほうからご意見、ご質問等ありませんでしょうか。運営推進室のほうからご説明で、古文書のですね、補修復写事業ということで、なにぶんにも予算措置の問題等々もありまして、アグレッシブに進めていくというようなかたちはなかなかとれないのかもわかりませんが、弘大のほうには兵隊、いくらでもいますので。もし機会がありましたら伝えてほしいというご意見等ありましたので。なにぶ</p>

令和7年度第2回弘前市立図書館協議会会議録【要旨】

<p>議 長</p>	<p>んにも予算措置の問題とか人件費の問題とかもありますので、一朝一夕にというわけにはまいりませんが、やはり貴重な文化資源ですので、これを活用して地域の振興に充てるということですから。それは弘前大学のほうでも1つのスローガンに挙げておりますので、ぜひ積極的な推進をご検討いただけたらということ、一言申し上げておきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>よろしくお願ひします。</p>
<p>議 長</p>	<p>本当に未整理のお宝が。これはおそらくここだけではありません。全国の図書館もそうですし海外の図書館もそうなんです。例えば100年前に購入した、例えばパピルスとかを、たまたま人件費等の予算がついたので解読したら、とんでもないお宝が見つかったというような話が結構ありますので。なにがお互いに関わるかわからないという時代ですので、そのあたりご検討のほう、よろしくお願ひしたいと思ひます。いかがでしょうか。なにかご意見、ご質問等ありませんでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>(なし)</p>
<p>議 長</p>	<p>もしなにかお伺ひしたいということがありましたら、意見等記入用紙にご記入いただいた上で、事務局に提出をお願ひできたらと思ひます。よろしいでしょうか。これをもちまして本日の議事はすべて終了いたしました。進行を事務局のほうにお返しいたします。どうぞよろしくお願ひします。</p>
<p>司 会</p>	<p>ありがとうございました。みなさま、本日は会議の進行にご協力いただき、ありがとうございました。以上をもちまして、令和7年度第2回弘前市立図書館協議会を閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。</p>